

令和6年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

- ・「学校の授業はわかりやすい」（生徒）の肯定率は、令和5年度の78%から、令和6年度は83%に上昇した。今年度も職員研修・授業研究期間などを設定し、授業改善に取り組んだ結果と考えられる。今後も、生徒の学力層・ニーズの変化にも対応しながら、わかりやすい授業を展開していきたい。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（生徒）の肯定率は、令和4年度85%、5年度88%、6年度88%と高い水準を維持しており、様々な授業で発表する機会が設けられ、それが定着してきたことがわかる。特にトネ究（総合的な探究の時間）で3年間の継続したカリキュラムで実施している個別探究の影響は大きいと考えられる。
- ・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取り組みの変化等を含めてされている。」（生徒）の肯定率は、令和5年度と同様に令和6年度も88%であり、高い水準を維持した。全学年で新教育課程に対応したカリキュラムが実施され、学びに対する姿勢などの評価が浸透してきたと考えられる。

【進路指導等】

- ・「ホームルームなどで進路についての情報が提供されている」（生徒）の肯定率は、令和5年度と同様に令和6年度も95%である。1年次から計画的に実施されている進路指導と学習支援クラウドサービスを活用した最新の大学等の進学情報の配信が効果であると考えられる。
- ・「学校は、長期休暇中の講習や進路指導等を実施している」（生徒）の肯定率は、令和5年度は96%、令和6年度は97%であり、夏季休業中の講習を中心として生徒のニーズに応じた講習が実施できていると考えられる。

【生徒指導等】

- ・「学校の生活指導の方針について納得できる」（生徒）の肯定率は、令和4年度68%、5年度72%、6年度は77%と着実に上昇している。引き続き、生徒に対して、高校生として「当たり前のことを当たり前に行い、全員が安心して学校生活をおくれるように指導していきたい。
- ・「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」（生徒）の肯定率は、令和4年度74%、5年度75%、6年度は79%と着実に上昇している。教員の生徒に寄り添う指導は実施できていることと教員間で綿密に情報共有を行っていることが要因と考えられる。今後も、生徒の小さな変化を見逃さない態勢を維持していきたい。

【特別活動等】

- ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」(生徒)の肯定率は、令和4年度83%、5年度91%、6年度は93%とさらに上昇した。昨年度より、文化祭の服装を「公衆道徳に反しない限り自由」というルールで実施し、生徒たちの自主性に任せたので、このような結果となったと考えている。今後も生徒たちが自主的に取り組む学校行事を実施していきたい。
- ・「部活動に積極的に取り組んでいる」(生徒)の肯定率は、令和5年度79%から6年度75%に減少
- ・「生徒会活動や部活動が十分できる環境が整っている」(生徒)の肯定率は、令和5年度82%から6年度83%に上昇

部活動については、近畿大会や全国大会に出場するなど、大きな成果を上げる部もあるが、全体の部活動加入率は80%を下回っており、積極的に取り組んでいると感じている生徒も減少している。教職員の働き方改革を進めていく中で、新しい部活動の在り方を考えていく必要がある。

【学校運営等】

- ・「学校に行くのが楽しい」(生徒)の肯定率は、令和5年度の85%から6年度は84%と若干の減少となった。各項目では上昇しているものも見受けられるので、それが学校全体への肯定感につながるような工夫が必要である。
- ・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」(生徒)の肯定率は、令和5年度の87%から6年度は88%に若干上昇した。本校の「行事も！部活も！勉強も！」の指導に多くの生徒たちが賛同して、頑張っていることが示されている。
- ・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」(生徒)の肯定率は、令和4年度48%、5年度49%、6年度は52%と徐々に上昇している。引き続き、地域貢献や他校種との交流を一層、積極的にすすめていきたい。